

昭和57年4月10日

先生

第1回北陸病害動物談話会の御案内

新年度を迎え、先生には益々御活躍のこととお慶び申し上げます。
このたび、新しい仲間として、富山医薬大に佐々学学長（帝京大から）、
福井医大に高田伸弘 助教授、立藤規子 助手（弘前大から）を迎えたのを
機会に、北陸3県の人体病害動物（寄生虫・衛生動物など）の関係者がつど
い、親睦を深める会合を計画いたしました。

先生にも是非御参加下さいますよう御案内申し上げます。

記

日時：昭和57年4月26日（月）17：30～同27日（火）8：30
会場：いこいの村 富山 富山県婦負郡婦中町細谷 1 ☎ 0764-69-5770
日程： 17：30 富山医薬大医学部研究棟2階病理学教室医局集合
大学内見学、学長室にて歓談
18：00 管理棟横からマイクロバスにて いこいの村 へ出発
18：30 入浴
19：00 懇親会
7：30 朝食
8：00 マイクロバスにて医薬大経由富山駅まで
会費：男性 1万円、女性 8千円、ただし個室希望者は500円高。
会費は当日会場で徴収します。
申込：折返し電話にて御連絡下さい。
連絡先：〒930-01 富山市杉谷2630
富山医科薬科大学医学部病理学教室
上村 清・丸山由紀子
☎ 0764-34-2281 内線 2351・2352
追記：貴県内関係者で連絡もれの方がおられますれば、お声をかけていた
だければ幸いです。なお、お仕事の紹介資料を20部ほど御用意いた
だきたく御願いたします。

昭和 58 年春

第 2 回北陸病害動物談話会の記録資料なし

第3回 北陸畜産動物産学協会

昭和59年6月9日(土)：午後3時～5時
国民年金保養センター「のと」

講演プログラム

演題：

(1) 人畜共通感染症の免疫診断

—教室で経験した症例について—

金沢大学・医学部・寄生虫・助教授 近藤力王至先生

(2) 金沢市における食品衛生について

—特に寄生虫関係について—

金沢市元町保健所課長代理 岡部佐武郎先生

(3) カラチ地方における「カ」と脳炎について

富山医薬大・医学部・病理・助教授 上村 清先生

お詫び：講演予定の富山医薬大学長佐々学先生が急用のため、本会への出席が不可能になりました。誠に残念でございますが、やむをえざることですので、ご了承くださいますようお願い致します。なお、富山医薬大・上村清先生に講演をお願いしましたので、ご聴講ください。

世話人：金沢医大・医動物 谷 荘吉
池田照明

第4回 北陸病害動物談話会プログラム

先に参加のお申し込みをいただきました談話会は、以下の要領で開催することとなりましたのでお知らせいたします。

日時： 1985年6月8日 2:30～5:00pm

場所： 談話会は勝山市教育福祉会館視聴覚研修室(3F) ☎8-5555
懇親会は近くの平泉寺荘 ☎8-2100

会費： 談話会のみ出席(1,000円),宿泊一切込(6,500円:朝食不要の方は申し出下さい)

参加： 5大学(他県含む),2衛研,8保健所,1予防会などから約40名(5月25日現在)

話題： 以下の順に発表,それぞれ質疑応答は5分とする

- | | | |
|-------------------|----------|---------|
| 1. 顎口虫症の現況 | 金沢大・近藤 | 20分(口演) |
| 2. イヌ糸状虫症の現況 | 金沢大・吉村 | 20分(口演) |
| 3. 大飯町における寄生虫実態調査 | 福井医大・四年生 | 5分(資料) |
| 4. 環境衛生の苦情処理状況 | 元町保健所・岡部 | 5分(資料) |
| 5. 富山県における恙虫病の現況 | 富山衛研・渡辺 | 15分(口演) |
| 6. 福井県における恙虫病の現況 | 福井医大・高田 | 10分(口演) |
| 7. 林業関係者のRt抗体保有状況 | 福井予防会・笠松 | 5分(資料) |
| 8. ユスリカと喘息 | 富山医薬大・佐々 | 5分(資料) |
| 9. アフリカの飢餓 | 金沢医大・谷 | 20分(口演) |

注:スライド映写機は1台です

配布資料(40部)は各自ご用意下さい

コピー機などは会館備付けを使用できます(有料)

※ 翌9日,テニスをご希望の方は当医大のコートにて楽しむことができますのでご準備下さい。
その他,ゴルフなどのご相談にも応じます。

1985年5月25日

世話人 福井医科大学免疫・寄生虫学教室

高田伸弘・立藤規子

〒910-11 福井県吉田郡松岡町下合月23

☎ 0776-61-3111(内2251~2252)

第5回北陸病害動物談話会開催のお知らせ(第2報)

衛生動物、寄生虫両学会も終わり、皆様にはますます御健勝のことと存じます。さて、先に御案内いたしました第5回北陸病害動物談話会を下記要領で開催いたします。懇親会場の宿泊にもまだ余裕がございますので、興味をおもちの方々を、お誘い下されば幸いです。

談話会プログラム

6月28日(土) 2:00-5:00pm

富山医科薬科大学カンファレンスルーム第3室(研究棟2階西端)

TEL 0764-34-2281 内線3401

演 題

2:00-2:15	クロバ工類は高い所がお好き?	富山医薬大	荒川 良
2:15-2:30	猿に旋毛虫を付けてみたら	福井医大	多田 高
2:30-2:45	今話題のユスリカ喘息をどう考える	富山医薬大	河合幸一郎
2:45-3:00	マラリア検査を簡単に行う方法	金沢医大	及川陽三郎
休 憩			
3:15-3:30	金沢の無縁仏を訪れて	元町保健所	岡部佐武郎
3:30-3:45	薬で死なないモンスターコガタイエカ	富山衛研	渡辺 護
3:45-4:00	北陸にもエキノコックスが流行するか	金沢大	大西義博
4:00-4:15	北陸地方でつつがなく暮らす法	福井医大	高田伸弘
休 憩			
4:30-5:00	特 別 講 演		

ソロモン群島でのマラリア調査

富山医薬大 佐々 学先生

懇親会

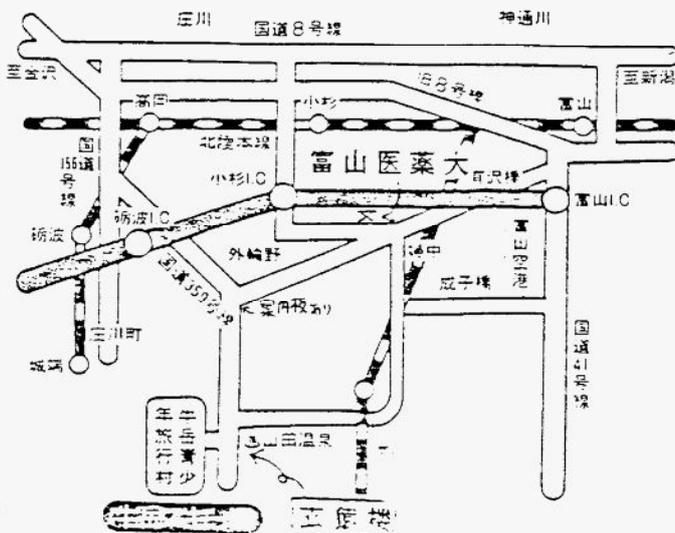
28日 6:30- (事前に入浴を済ませても結構です)

婦負郡山田村 山田温泉元湯 玄猿楼

TEL 0764-57-2121

(医薬大よりマイクロバスで送迎します)

会費 一泊二食 一万円



世話人 上村 清・荒川 良
富山医科薬科大学医学部寄生虫学教室
TEL 0764-34-2281 内線2351、2352、2353

北陸病害動物談話会会報

第1巻 1号

北陸病害動物談話会会報の発刊にあたって

佐々 学（前富山大学長）

この度北陸病害動物談話会がその会誌を発刊されることとなつて、私もその会員の一人として大変うれしい。そもそも学問の世界では、どんなに新しい発見をしても、それを見ただけ、話しただけでは何の価値も残らない。それを一定の条件を備えた印刷物にしたときに初めて学問上のプライオリティが成立するものであるということはいうまでもない。そして、これまで北陸にいる病害動物研究者達が単に知識の交換の場、懇親の機会として利用してきたこの会が、本当に学問上の記録として残る機関誌を発刊して下さることは大変意義のあることと信ずる。どんな物が出来上がるか、大変楽しみである。

ところで、こういう機関誌なるものは、必ずしも贅沢な紙を使ったり、高級な印刷をしたりする必要はなかろう。どうせ、発刊にあたってはその基金も乏しいものであろうから、とにかく機関誌としての形式さえととのえて下さればそれで満足しよう。要はその中身である。いわゆるワープロかパソコンを使って簡単な印刷物とし、それを費用のかからぬ方法で必要部数だけを複製すればよかろう。私も近年、ユスリカの論文を沢山書いているが、国立公害研究所にお願いしてその所報の一部として出版させていただくのに、従来はタイプでたたいた原稿を印刷所で活字に組み直して、印刷、製本をしてもらった。例えば一冊100頁ほどの論文の出版に百何十万円もかかったものが、私自身がワードスターというソフトをもちい原稿をパソコンに納め、そのフロッピーを送ると良質のプリンターで打ち出してくれて、その原稿を写植することによりタイピストも組版工もいらず、従来の経費の4分の1以下で出版できるような時代となった。要は今回の会誌もみんなで費用がかからないような工夫をして、中身のある、充実した会誌に育てていただくことを期待したい。地方の会誌であるから、何も中央の学会誌のように堅苦しい内容のものばかりでなく、北陸地方らしいローカルカラーの盛られた随想であってもよろしかろう。だが、この会誌が日本の他の地域の病害動物研究者にとっても、あるいは外国の学者にも注目を引くような内容を盛った物であつて欲しいと念願している。

1988年5月14日

富山市科学文化センターにて

佐々 学

第6回 北陸病害動物談話会

昭和63年 6月18日(土) (午後1時半-5時)

於 金沢大学医学部会議室(基礎棟1階)

1:30 開会

1:35 石川県厚生部長挨拶 (今田寛睦)

1:45 アルファベットの時代 (吉村裕之)

シンポジウム 北陸の環境と病害動物(I)

座長 上村 清(富山医薬大)

2:00 クサギカメムシの発生経過 (渡辺 護)

2:15 室内塵のダニについて (田中博義)

2:30 ネパールで用いられる生薬の殺虫活性スクリーニング (木内文之)

2:45 マラリア媒介能を有する日本特産オオモリハマダラカの生物学的諸特性について (荒川 良)

3:00 質疑応答と休憩

シンポジウム 北陸の環境と病害動物(II)

座長 高田伸弘(福井医大)

3:30 Salmonella Itamiの集団発生例について
ワグヌヤ
(四月朔日直行)

3:45 モノクローナル抗体で捉えた大平肺吸虫体表抗原の発育に伴う入れ替わり現象 (及川陽三郎)

4:00 アニサキス症の発症状況と免疫診断-当教室に寄せられた症例を基にした解析 (赤尾信明)

4:15 福井県におけるアニサキス症の動向と公衆衛生の意義 (大滝秀穂)

4:30 質疑応答

5:00 閉会

北陸病害動物談話会会報

第 2 卷 1 号



会 期	1989年6月10日（土）
会 場	福井県立博物館研修室
主 催	北陸病害動物談話会福井県実行委員会

第7回 北陸病害動物談話会プログラム

1989年6月10日(土) 午後1:00~5:00

於 福井県立博物館研修室(福井市大宮2丁目19-15)

1:00 開会の挨拶(福井県衛生研究所々長 波多野基一)

感染症の話題

座長 四月週日 直行(石川県・羽くい保健所)

1:05~2:15

- 1 Ultrastructural study of the mobile stage of *Plasmodium yoelii nigeriensis* in the midgut of *Anopheles omorii* Syafruddin(富山医薬大・寄生虫)
- 2 学校給食にみられたサルモネラ菌食中毒の1例-食品衛生における病害動物たち- 杉下吉一(石川県・七尾保健所)
- 3 と畜豚にみられた細頸囊虫症について 岡部佐武郎(金沢市・食肉検査)
- 4 当教室へ診断が依頼された顎口虫症 大山卓昭(金沢大・寄生虫)
- 5 免疫学的に診断しえたヒト肝蛭症の1症例-その免疫学的検討- 池田照明(金沢医大・医動物)
- 6 アニサキス症 岩城 真(福井医大・二内科)
- 7 三国町のアニサキス症とその背景(資料) 今村 信(三国町・町立病院)
- 8 182例の胃アニサキス症を経験して-特に最近10年間の148症例に関する臨床的検討- 月岡照晴(武生市・月岡医院)

2:15~2:40 コーヒーブレイク(この間、20分ビデオ「ツツガムシ病」を放映)

特集「虫のアレルギー」

座長 渡辺 護(富山県・衛生研究所)

2:40~4:30

- 9 教育講演<皮膚科領域でみられる病因虫と皮膚症状> 上田恵一(福井医大・皮膚科)
- 10 問い合わせ事例にみる虫ノイローゼ 田中博義(福井衛研・環境医学)
- 11 都市河川に異常発生するトビケラの防除に関連して 足達雅彦(京都衛研・環境)
- 12 公衆衛生における衛生動物・不快動物等の課題-最近の経験から-(資料) 松野喜六(京都衛研・環境)
- 13 富山県宇奈月温泉に多発するクダガキカメムシ 渡辺 護(富山衛研・医動物)
- 14 Immunocompromised hostに発症した院内感染としてのカイセンおよびその対策 岩崎博道(福井医大・一内科)
- 15 身障者ワークショップにおける集団ヒゼンダニ症(資料) 高田伸弘(福井医大・寄生虫)
- 16 ユスリカ・アレルギーに関する基礎的研究-各種成虫残存Hbの共通抗原性について- 河合幸一郎(富山医薬大・免疫)
- 17 総括講演<アレルギーをおこす虫たち> 佐々 学(前富山医薬大学長)

4:30~4:59 総合討論

5:00 閉会

北陸病害動物談話会会報

第3巻 1号

期日	1990年6月30日(土)
会場	金沢医科大学
主催	金沢医科大学医動物学教室

第8回北陸病害動物談話会プログラム

1990年6月30日(土) 午後1時半～5時
於 金沢医科大学 セミナー室(基礎研究棟3F)

プログラム

1:30～3:00 座長 岡部佐武郎(金沢市・食肉検査)

- 1) 富山市内某百貨店におけるゴキブリ駆除効果について
守山義明(丸三製薬研究所)
- 2) 昆虫成長制御剤pyriproxyfenのネッタイシマカに対する作用の
組織病理学的研究
Syafreddin、荒川 良、上村 清(富山医薬大・
医・寄生虫)
- 3) 平成元年度における豚肝臓間質炎の検出状況
池田昌幸(金沢市・食肉検査)
- 4) インドネシア・スラウェシにおける寄生虫調査
大山卓昭、赤尾信明、近藤力王至(金沢大・医・寄生虫)
林 隆文(富山友愛病院)

特別講演

「ソロモン諸島国のマラリア対策」
岡沢孝雄(富山医薬大・医・寄生虫)

———— コーヒーブレイク ————

3:15～4:45 座長 近藤力王至(金沢大・医・寄生虫)

- 5) ツツガムシ病と紅斑熱の血液検査の意義
— 異型リンパ球を中心に —
岩崎博道、中村 徹(福井医大・第一内科)
高田伸弘(同・寄生虫)
- 6) 最近注目されるライム病について — 北陸における問題点 —
高田伸弘、矢野泰弘(福井医大・寄生虫)・岩崎博道(同・
第一内科)・緒方 昭(同・環境保健)
- 7) 病理標本における寄生虫免疫学的診断
及川陽三郎、市川秀隆、池田照明(金沢医大・医動物)
- 8) 食肉を介して感染する犬蛔虫症の疫学
近藤力王至、赤尾信明、高倉吉正、大山卓昭、小西喜彦
(金沢大・医・寄生虫)

教育講演

「福井県における野性生物保護の課題
— 特に鳥類・哺乳類について —」
林 哲(福井県勝山市・県自然保護センター)

北陸病害動物研究会会報

第 4 卷 1 号

期日 1991年6月29日(土)

会場 国立立山少年自然の家大研修室

主催 富山医科薬科大学医学部寄生虫学教室

北陸病害動物研究会富山県幹事

第9回北陸病害動物研究会プログラム

1990年6月29日(土) 14:00-17:00

国立立山少年自然の家 大研修室

プログラム

14:00-15:15

座長 渡辺 護 (富山県衛生研究所)

- 1: 日本脳炎媒介コガタイエカのライトトラップによる消長調査法の検討
福田京子、荒川 良、岡沢孝雄、上村 清 (富山医薬大・医・寄生虫)
- 2: 紅斑熱リケッチアに対するモノクロナール抗体
及川陽三郎、池田照明、市川秀隆 (金沢医大・医・医動物)、高田伸弘、
矢野泰弘 (福井医大・医・免疫寄生虫)
- 3: 敦賀市内の事業所従業員におけるアニサキス症に関する疫学調査
矢野康弘、高田伸弘 (福井医大・医・免疫寄生虫)、山崎幸直、畑 正
典 (福井医大・医・第2内科)
- 4: 福井県におけるマダニの調査 (予報)
石畠 史、飯田英侃、北島耕作、波田野基一 (福井県衛生研究所)、高
田伸弘 (福井医大)、稲田弘毅 (福井県食肉衛生検査所)
- 5: 国際緊急援助隊医療チーム・避難民援助活動に参加して
大山卓昭 (金沢大・医・寄生虫)

休 憩

15:30-17:15

座長 近藤力王至 (金沢大・医・寄生虫)

特別講演

「殺虫剤による害虫防除の歴史と病害動物防除への貢献」

斎藤哲夫 (名古屋大学名誉教授・カセサート大学)

- 6: 研究紹介—金沢医科大学 医動物学教室—
池田照明、及川陽三郎、市川秀隆 (金沢医大・医・医動物)
- 7: 福井県の医動物学関係機関における研究の動向
高田伸弘 (福井医大・寄生虫)
- 8: 私たちの教室では今どんな仕事をしているのか
赤尾信明、大山卓昭、高倉吉正、小西喜彦、大川 力、近藤力王至
(金沢大・医・寄生虫)
- 9: 富山医薬大寄生虫学教室の研究紹介
上村 清、荒川 良、岡沢孝雄、シャフルディン、福田京子
(富山医薬大・医・寄生虫)

北陸病害動物研究会会報

第 5 卷 1 号

期日 1992年9月5日(土)
会場 ラポート兼六
主催 金沢大学医学部寄生虫学教室

第10回北陸病害動物研究会を記念して

当番 金沢大・医・寄生虫
係 近藤力王至

本会は、1983年（昭和58年）当時、富山医科薬科大学の学長であった佐々学先生のご発案で、北陸における病害動物及び環境を害する動物の対策、研究に携わっている人達の、発言の場として発足をみるに至ったのであります。本年はそれから10年目にあたり、その研究会がここに催されるようになり、これまでよくも続けてこられたものだと、各当番機関関係者は感にたえないものがあります。これも、関心をお持ちの皆様のためゆめ調査、研究あるいは一般住民への対応など、日夜尽くしてこられたことによるものと思われまふ。この研究会で発表される成果は、こと北陸だけに限らず、あらゆる地方の病害動物の研究、対策に問題を提起するものと思われまふ。さらに目を世界に転じますと、自然環境の変化、破壊が進む中であって、あらゆる動物の生態系、疾病疫学的環境が左右されている折り、私共のささやかな研究成果が礎となり、何らかの指標となっていくものと信じております。私共の研究は、寄生虫、病原媒介動物、環境に関する動物を中心に、誰もが持つ疑問を明らかにしていくもので、決して陽のあたる分野ではありません。しかし、私共の研究成果が世界人類の健康、福祉のため果たす役割は大きく、その自負の上に立って種々研鑽を重ねております。そのことが、若い人達の中にも逐次ひろがり、誇りをもってこのような仕事をして下さる方が一人でも多く出て、さらにこの会を発展させて頂けることを願ってやみません。

第10回北陸病害動物研究会

1992年9月5日(土) 午後1時~4時30分
於 ラポート兼六

プログラム

1:00~2:40

1. 梨子村絹代(金沢市衛生検査課)
アメーバ赤痢の一事例について
2. 廣川 渉、伊藤真一(石川県予防医学協会)、赤尾信明、大山卓昭、
大川 力、近藤力王至(金沢大・医学部寄生虫学教室)
石川県における来日就労外国人の寄生虫学的検査成績
3. 市川秀隆、及川陽三郎、池田照明(金沢医科大・医動物学教室)
モノクローナル抗体によって確認される大平肺吸虫の排泄・分泌抗原
4. 高田伸弘、矢野泰弘(福井医大・免疫学・寄生虫学教室)
福井県における最近の条虫症 特に無鉤条虫およびマンソン孤虫症について

特別参加講演

西山利正(奈良医科大・寄生虫学教室)
最近話題の条虫症の発生要因とその問題点—有鉤囊虫症、マンソン孤虫症、無鉤条虫症を中心として—

— コーヒーブレイ (2:40 - 3:00) —

3:00~4:30

5. 石畝 史、飯田英侃(福井県衛生研究所)、高田伸弘(福井医大)
福井県におけるマダニ類のライム・ボレリア保有状況と分離株の性状について
6. 守山義明(丸三製薬)
PCOとはなにをやっているのか?
7. 森井 勇、石戸聖子、八十島満枝、山本律子、中橋 孝、稲垣甚一郎
(池田模範堂)
虫さされ等のかゆみに対する鎮痒試験と外用鎮痒剤の開発
8. 吉藤浩之(金沢市食肉検査所)
ラテックス凝集反応によるマムシ毒素量の測定

帰朝報告

上村 清(富山医薬大・寄生虫)
インドネシア国スラウェシ島での調査を終えて

北陸病害動物研究会会報

第 6 卷 1 号
(第 11 回集会記録)



期日 1993年5月30日(日)
会場 福井理容美容専門学校講堂
主催 北陸病害動物研究会福井県実行委員会

新たな10年に向かって

北陸病害動物研究会は、1983年に談話会として発足以来、研究会へと名称変更はありましたが、毎年休むことなく開催されて来て昨年で満10年、そして今年は新たな10年の門出の年を迎えることとなります。それで、改めて本研究会の方向性なるものを愚考してみたのですが、もとよりこの分野は医学的な視点を主としながらも、自然あるいは社会的環境の種々の要因を大なり小なり加味して討議を進めざるを得ない性格を備えていると思います。一方、最近では医学一般でも「環境」という視点は益々要求されて来ているような状況かと思われれます。そして今回、佐々 学先生が来福される機会に、先生が長年手掛けて来られた衛生動物学の環境面での意義につきまして特別講演をいただけるということになりましたので、ここで一つ「環境」というキーワードを前面に掲げてみるのはいかがかということで、企画させていただきました。それに対しまして、皆様からは多彩な演題をお寄せいただきまして、ここに開催の運びとなりました。とにかく、これが本研究会の新たな10年を切り開く何らかのきっかけにでもなればと願っております。ご協力ありがとうございました。

1993年5月

福井県幹事 高田伸弘・矢野泰弘（福井医大）

稲田弘毅（福井県衛生指導課）

事務局 〒910-11 福井県吉田郡松岡町下合月23

福井医科大学医動物研究室(高田／矢野)

Tel 0776-61-3111(2252)／Fax 同-8105

本研究会の開催にあたり、財団法人福和会より学会等運営助成金(地方ブロック)の交付を受けた。記して謝意を表する。

第11回北陸病害動物研究会プログラム

1993年5月30日(日)午後1:00~5:00

会場: 福井理容美容専門学校講義室(福井県吉田郡松岡町
兼定島34 Tel 0776-61-2441)

会費: 1,000円

●一般演題(発表10分、討論3分)……………座長: 渡辺 護

1:00~

1. 福井市場への海産魚とくにサバの入荷量とアニサキス症発生との関係…学生発表
2. 福井県における野鼠類とその寄生マダニ類からのBorrelia分離……………石畝ほか
3. 食品を感染源とするトキソカラ症の疫学的調査……………高倉ほか
4. マウスに高いIgE産生を誘導するユスリカHb遺伝子のクローニング……………河合ほか
5. 新潟県のツツガムシと恙虫病-特に野鼠及び満腹、未吸着幼虫からの
リケッチア検出-……………監物ほか

2:05~ コーヒーブレイク(15分間)

●要望演題「北陸の環境と病害動物、研究または行政の面から」(発表15分、討論3分)

2:20~

住居内外の環境問題……………座長: 稲田弘毅

6. 当教室で経験したマダニ刺症とマダニ生息状況の現地調査……………及川ほか
7. 畜舎におけるイエバエ総合防除の検討……………荒川ほか
8. 家屋侵入性カメムシの侵入・潜みの実験的検討……………渡辺ほか
9. 健康リビング-住居衛生に関するアンケート調査結果について……………岩治ほか

小 休 止 (5分間)

食品衛生および医療環境の問題……………座長: 近藤力王至

10. 皮膚跛行症を起こす旋尾線虫幼虫Type Xの海産動物数種類における自然
感染状況及びType X幼虫を抗原とした蛍光抗体法による血清学的診断…岡沢ほか
11. Immunocompromised hostにおける感染症対策を中心とした病室内環境
および生体内環境……………岩崎ほか

4:15~

●環境と病害動物について(講演ならびに討論)

特別講演 「環境保全と衛生動物学」 佐々 学(富山国際大学長)

5:00~

●懇親会(隣接の調理師学校レストランにて1時間程度/3,000円)

北陸病害動物研究会会報

第7巻 1号

期日	1994年6月25日(土)
会場	金沢医科大学
主催	金沢医科大学医動物学教室

第 1 2 回北陸病害動物研究会プログラム

1994年6月25日(土) 午後1時～4時40分

於 金沢医科大学 病院別館7F 会議室

- 1:00～2:00 座長 矢野泰弘(福井医大・医動物)
- 1) 害虫防除における Less chemical
守山義明(丸三製薬)
 - 2) 河北潟干拓地におけるノネズミ類の消長 -18年間の記録-
大串龍一(金大・理・生物)
 - 3) 勝山市におけるダニ起因性アレルギーの実態調査
高田伸弘(福井医大・医動物)、天谷陽子、片岡麻理子、
樹田康子、山崎綾野(同・四年生)、若林正三郎(勝山病院
小児科)、岩治 勉(勝山保健所)
 - 4) 西日本におけるボレリア媒介・維持機構について
石畝 史、飯田英侃(福井県衛研)、山本 進(鹿大医・衛生)、
矢野泰弘、高田伸弘(福井医大・医動物)
- 2:00～3:00 座長 荒川 良(富山医薬大・医・寄生虫)
- 5) 害虫忌避剤「ムシペール α」の医薬品としての開発経過
森井 勇(池田模範堂 研究所開発部)
 - 6) 福井県大野市におけるツツガムシ病発生パターンの検討
矢野泰弘、高田伸弘(福井医大・医動物)、高山英之、平野智久、
林 雅之、前田一也(同・四年生)、山川 秀(山川医院)
 - 7) 福井県における重症ツツガムシ病の1例(勝山保健所内初確認例)
橋本憲三、小泉一郎、西尾宏之、藤田 学、本定 晃(社会保険
勝山病院内科)、岩崎博道(福井医大・第1内科)、高田伸弘
(同・医動物)
 - 8) 能登地方のマダニ調査(その2)
及川陽三郎、池田照明(金沢医大・医動物)、山村敏明(公立
穴水総合病院眼科)、久堂寛久、南 陸男(石川県輪島保健所)、
高田伸弘(福井医大・医動物)

———— コーヒーブレイク(3:00～3:15) ————

3:15~3:50

座長 池田照明（金沢医大・医動物）

最近の話題 「近年問題となっている旋尾線虫について」

近藤力王至（金大・医・寄生虫）

赤尾信明、大山卓昭（同・寄生虫）、

岡沢孝雄（同・公衆衛生）

9) 富山湾産ホタルイカにおける旋尾線虫幼虫の寄生状況

荒川 良（富山医薬大・医・寄生虫）

3:50~4:40

座長 赤尾信明（金大・医・寄生虫）

10) 金沢市内における公園の砂場のToxocara卵による汚染

岡沢孝雄^{*}、赤尾信明^{**}、近藤力王至^{**}、岡田 茂^{**}、

高橋あけみ^{*}、畑 直宏^{*}、大山卓昭^{**}（^{*}金大・医・公衆衛生、

^{**}同・寄生虫）

11) 犬蛔虫卵に対する各種抗菌剤の殺卵効果

赤尾信明^{*}、岡沢孝雄^{**}、片山美千代^{*}、沼崎恵子^{*}、近藤力王至^{*}

（^{*}金大・医・寄生虫、^{**}同・公衆衛生）

12) メフロキンで治療できた熱帯熱、三日熱マラリア混合感染の1例

上村 清、荒川 良（富山医薬大・医・寄生虫）、泉 三郎

（富山県立中央病院・内科）、増田剛太（都立駒込病院・感染症）

13) 広節裂頭条虫症の1例および九頭竜川流域での同症疫学（追加演題）

萩野正樹、大滝秀穂（大滝病院）、高田伸弘（福井医大・医動物）

北陸病害動物研究会会報

第13回研究集会プログラム・抄録集



会期： 1995年6月3日（土）
会場： 福井県立大学交流センター多目的ホール
主催： 北陸病害動物研究会福井県実行委員会

第8巻1号

開催に当たって

ご存じのように、今年度になりまして、北陸の関係大学や衛生行政の方々に異動がさまざまみられました。これにより、研究や監視態勢に変化の兆しが見えなくもないのですが、しかし、病害動物そのものに突然の様変わりや発生の減少があるわけではなく、今後も従来通りの対応が要求されてゆくのではないのでしょうか。

その意味で、改めて、衛生・環境行政の中での病害動物の意義を論議し合うのも必要と考え、一般講演とは別に、動物環境についての特別講演および行政サイドからの話題を基にした自由討論など企画させていただきました。また、これは鳥獣保護の業務にも係わるということで、福井県自然保護課の研修会をも兼ねることになりました。

ともかく、本研究会は関係者相互の情報交換の場を提供できさえすれば、それだけでも所期の目的は達するわけでして、皆様のご参集を感謝いたします。

1995年6月3日

北陸病害動物研究会福井県実行委員会

高田伸弘・矢野泰弘(福井医科大学)

稲田弘毅・石畝 史(福井県衛生研究所)

事務局：〒910-11 福井県松岡町 福井医大医動物研究室

Tel 0776-61-3111(2251-2252) Fax 0776-61-8105

本研究会の開催に当たり、財団法人福和会（福井医大）から学会等運営助成金の交付を受けた。記して謝意を表す。

第13回北陸病害動物研究会プログラム

会 期：1995年6月3日(土) 13:00～

会 場：福井県立大学交流センター多目的ホール

世話人：北陸病害動物研究会福井県実行委員会

一般講演 13:00～14:30 (一人 15分)

座長：四月朔日直行(石川県生活衛生課)

1. 中・西日本の野鼠とそのライム病ボレリア抗体の保有頻度
…… 石畝 史(福井県衛研) ほか
2. 家屋越冬侵入性カメムシの多飛来地点の地形的特徴
…… 渡辺 護(富山衛研) ほか
3. 富山市の「健康とゆとりの森整備事業」への対応について
…… 上村 清(富山医薬大寄生虫) ほか

座長：渡辺 護(富山県衛研)

4. レバー生食による豚における肝蛭幼若虫感染の成立
…… 吉藤浩之(金沢市食肉検)
5. 条虫症の2幼児例
…… 川谷正男(福井医大小児科) ほか
6. 石川県能登半島におけるマダニ刺症とマダニ媒介性疾患
…… 及川陽三郎(金沢医大医動物) ほか

資料 福井県にみられる病害動物の足あと(1)

…… 高田伸弘(福井医大医動物)

休 憩 14:30～14:45

特別講演 14:45～15:45

司会：高田伸弘(福井医大医動物)

『福井県の鳥類・哺乳類の分布と人間生活との関わり』

…… 大迫義人(福井県自然保護センター)

休 憩 15:45～16:00

問題提起と討論 16:00～

座長：近藤力王至(金沢大学/石川県予防会)

『衛生・環境行政と病害動物』

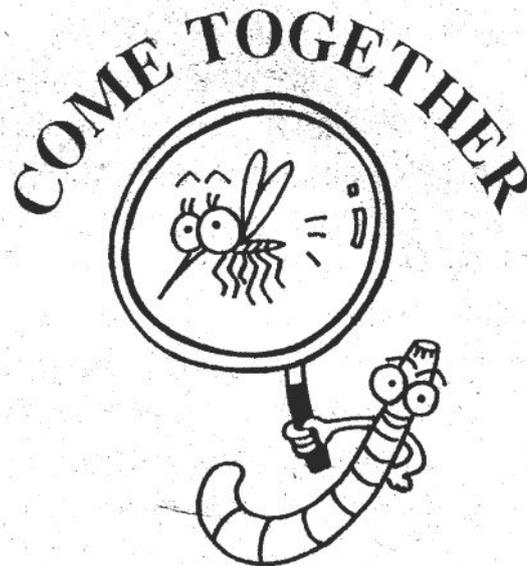
1. 動物を囲む法律 …………… 稲田弘毅(福井県衛研)
2. 「カイセン症」になったという苦情 …………… 四月朔日直行(石川県生活衛生課)
3. 保健所の窓口業務における病害動物 …………… 富山県衛生行政担当者
4. アタマジラミの対策について …………… 林隆一郎(福井県小浜保健所)

懇 親 会 (討論終了後)

北陸病害動物研究会会報

第14回研究集会プログラム・抄録集

第9巻 1号



期日 1996年6月22日(土)

会場 富山医科薬科大学看護学科研究棟2階22講義室

主催 富山医科薬科大学医学部感染予防医学教室

第14回北陸病害動物研究会開催に当たって

北陸病害動物研究会は、1983年（昭和58年）当時、富山医科薬科大学学長であられた佐々学先生のご発案で、北陸における病害動物及び環境を害する動物の対策、研究に携わっている人たちの交流の場として、まず談話会と称して発足しました。その内容が回を追うにしたがって充実してきたので、1991年から研究会と改称し、研究集會中心の研鑽の場として今日に至っております。

私どもの研究、業務は、人間生活に直接関わって、健康、福祉面で果たす役割は多大ですので、大いに自負して研鑽に努めたいものです。「21世紀は寄生虫・衛生動物の時代」だと云っても過言ではありません。ところが現実には、北陸の大学・研究機関や衛生行政の人事異動の動きを眺めると、私どもの職場が無用ととられているのではないかと勘ぐりたくなるまでに、縮小傾向にあります。富山医科薬科大学の研究室も病理学講座寄生虫学研究室から、感染予防医学講座に独立いたしました。人員増はなく、細菌学と体よく合体させられて、研究条件はむしろ改悪された感さえいたします。この流れを是正する意味でも、この研究会で大いに成果を公表し、その存在をアピールしていくことが肝要と思われまます。

今年は、そういった意味で、80才の傘寿の祝いを迎え、益々お元気で活躍されている本会発起人の佐々学先生に、「これからの衛生動物学研究に期待する」と題する特別講演をお願いいたしました。また、従来的一般講演に加えて、佐々先生の国際環境福祉研究所構想に参画される前JICAグアテマラプロジェクトリーダーの緒方一喜先生などに「私の構想」に関する講演をしていただきます。

どうか、当初申込みいただいた方は無論、飛び込み参加も大いに歓迎いたしますので、皆さまのご参集をお願いいたします。

1996年6月14日

北陸病害動物研究会富山県幹事

上村 清（富山医科薬科大学）

渡辺 護（富山県衛生研究所）

守山義明（丸三製薬株式会社）

事務局：〒930-01 富山市杉谷 2630 富山医科薬科大学医学部感染予防医学教室

TEL. 0764-34-2281(内線 2351/2352/2353), FAX. 0764-34-5018

第14回北陸病害動物研究会プログラム

1996年6月22日(土) 13:30-18:00

富山医科薬科大学看護学科研究棟2階22講義室

プログラム

13:30-14:15

座長 岡沢孝雄(金沢大学留学生センター)

1: 日本におけるセアカゴケグモの生息状況

松瀬俱子・上村 清(富山医薬大・感染予防医学)・吉田雅弘(大阪府公衛研・医動物)

2: 石川県小松市におけるツツガムシ病発生の環境要因について

福井医大4年次生・福井医大・石川県小松保健所

3: 富山県のつつがむし病ーとくに隣接県との比較ー

渡辺 護・石倉康宏(富山県衛研)

14:15-15:00

座長 浅田恒夫(金津保健所)

4: 私の構想 ダニ媒介性感染症ーユーラシア大陸と我が国の接点を探るー

高田伸弘(福井医大・医動物)

5: 東京多摩地区におけるハチ刺傷の疫学的調査結果

秦 和寿(東京都八王子保健所)

6: 食品と衛生動物(そ族昆虫)ー何故、衛生動物(そ族昆虫)は人の生活を不快にするのかー

稲田弘毅(福井県衛研)

北 陸 病 害 動 物 研 究 会 会 報

第 15 回 研 究 会 抄 録 集

第 10 卷

期日	1997年6月7日(土)
会場	金沢医科大学基礎棟
主催	金沢医科大学医動物学教室

第15回北陸病害動物研究会開催に当たって

ニセアカシアの花が咲き、微かに甘い香りが漂う、まさに風薫る爽やかな初夏となりました。ニセアカシア林の向こうには日に輝いた、まっ青な海が広がっており、北陸の海岸に多大な環境汚染をもたらしたロシアタンカー重油流出事故がほんの数ヶ月前に起きたということが嘘のような光景です。

さて、北陸病害動物研究会も15回目を迎え、我々の教室のお世話も4回目を数えることになりました。お世話して心強く思うことは、病害動物の研究・仕事の発表会といえども、その時々の世界の話題と関連した演題が出てくるということです。今回も、重油流出事故に関連してできた研究の演題、昨年からマスコミで大騒ぎになり本年もすでに日本各地で散発的に発生を見ているO-157大腸菌食中毒に関連した演題、一昨年に騒がれたセアカゴケグモについての演題などが挙げられます。全国的にみて規模が小さいと思われる北陸地区においても、積極的に時々の世界のニーズに応えた研究・仕事がなされていることを高く評価したいと思うしだいです。

本研究会の発起人の中心人物である近藤先生から、“会の発展は喜ばしいのだが15年も過ぎたので会の運営について話し合う場をもたれたら”という提言を頂きました。その時、すでに多数の演題を頂いておりましたので話し合いの時間を設ける余裕がありませんでした。確かに本会の益々の発展と充実のため、会の運営をどうするかを検討すべき時期かもしれません。次回にゲタを預ける形になりますが、次の世話人の方はこのことについて宜しく願います。

会員各位からは多数の演題をお寄せ頂き、充実したプログラムが組めましたことに厚くお礼を申し上げます。当日の会には多くの会員の方々が奮って御参加頂けることを期待しております。

1997年6月7日

第15回北陸病害動物研究会世話人
金沢医科大学・医動物学教室
池田照明

第15回北陸病害動物研究会プログラム

1997年6月7日(土) 午後1時～4時55分
於 金沢医科大学 基礎棟3階セミナー室

1:00～1:50 座長 池田照明(金沢医大・医動物)

- 1) 当大学病院で経験した2例の肺犬糸条虫症の免疫診断学的考察
○及川陽三郎、池田照明(金沢医大・医動物)、土島秀次(同・胸部血管外科)、上田善道(同・第2病理)、赤尾信明(東京医歯大・医動物)
- 2) 留学生に見られた寄生虫症
○岡沢孝雄(金沢大・留学生センター)
- 3) アフリカ旅行者に発症した *Giardia lamblia* および *Plesiomonas shigelloides* に起因する下痢症の1例
○岩崎博道、清水寛正、三崎裕史、上田孝典(福井医大・第1内科)、高田伸弘(福井医大・寄生虫)
- 4) ケニア・タンザニア旅行中に経験した下痢症および現地住民の環境衛生に関する報告
○岡本恵治(福井県立大・4年生)、岩崎博道(福井医大・第1内科)、高田伸弘(福井医大・寄生虫)

1:50～2:40 座長 矢野泰弘(福井医大)

- 5) ピーズ法を用いたホルマリン保存糞便における肝蛭卵検査
○吉藤浩之(金沢市食肉検査所)
- 6) 北陸地域の野生鳥類に見られた寄生線虫類2種について
○横畑泰志、紺谷和俊(富山大・教育・環境生物学)、須藤明子(岐阜大・農・獣医)、梶ヶ谷 博(野生動物救護獣医師協会)、楯 美樹((株)富士バイオメディックス)
- 7) 絶滅のおそれのある日本産野生脊椎動物の寄生蠕虫類の検索
○井筒章代、本多真弓、横畑泰志(富山大・教育・環境生物学)
- 8) 汚水繁殖性淡水魚による下水浄化効率に関する観察
佐々 学、○緒方一喜(国際環境福祉研究所)、安田郁子(富山県立大短大・環境工学科)、中猛一郎(近畿大九州・工学部)、高木美代子(国際環境福祉研究所)、小崎敏弘(黒部市下水道部)

コーヒープレイク (2 : 40 ~ 2 : 55)

2 : 55 ~ 3 : 25 座長 岡沢孝雄 (金沢大・留学生センター)

特別講演 「富山の自然に学ぶ」

上村 清 (富山医薬大・医・感染予防医学)

休憩 (3 : 25 ~ 3 : 35)

3 : 35 ~ 4 : 15 座長 守山義明 (丸三製薬株式会社)

9) セアカゴケグモの毒腺抽出物による発痛作用

○出崎克也、倉石 泰 (富山医薬大・薬・薬品作用)、松瀬俱子、
上村 清 (富山医薬大・医・感染予防医)、吉田政弘 (大阪府公衛研)

10) ハチ毒無毒化の試みにおける問題点について

○松瀬俱子、前田玲比子、上村 清 (富山医薬大・医・感染予防医学)

11) 蚊忌避剤入り芳香剤のヒトスジシマカ雌成虫に対する忌避効力

○白井良和、イスハック・ハサヌディン、松瀬俱子、上村 清 (富山医
薬大・医・感染予防医学)、長崎一雄 (日本動物薬品)

4 : 15 ~ 4 : 55 座長 四月朔日直行 (石川県厚生部生活衛生課)

12) 石川県小松地方におけるツツガムシ病の疫学 (続)

○矢野泰弘、福井医大4年生、高田伸弘 (福井医大)、
水腰久美子 (石川県南加賀保健所)

13) 中国中央部におけるダニ媒介感染症の事情紹介

○高田伸弘、矢野泰弘 (福井医大)、石畝 史 (福井県衛研)

14) 病原大腸菌、特にハエ類との関連 - 全国調査の開始についての紹介 -

○石畝 史 (福井県衛研)、高田伸弘 (福井医大)

5 : 00 ~ 6 : 00 懇親会

北陸病害動物研究会会報

第 11 卷

(第 16 回集会抄録集)



期日 1998年6月6日(土)
会場 福井県立大学国際交流センター多目的ホール
主催 福井県衛生研究所

北陸病害動物研究会第16回集会の開催 にあたって

今回、北陸3県を毎年交互に開催しております北陸病害動物研究会が福井県の担当で行われる事になりました。従来は福井医科大学の寄生虫学の先生が世話人として運営してきておりましたが、今回は大学以外の世話人ということで私共が参加させて頂き、準備、計画など進めて本日を迎えております。

私は臨床医でしたので、トキソプラズマについては、昭和40年代に共同研究したことがあります。この研究会への参加は初めてで御座います。病害動物と言いますと、一般に毒蛾や毒蜂、スズメ蜂やダニ、蚊等を思い出すのですが、最近は国際交流の時代で、外国産の動物も数多く輸入されていると聞かれますので、研究課題も多いことと考えます。また、これらの動物や原虫が病原体の媒介を行って、人への病気の伝播に関わっていますので、病原体の分子生物学的検査や疫学研究など世界的な視野での研究分野でもあります。

本日は特に教育講演としまして、岩崎先生の「感染症重症化への機序」と石黒先生の「アルベリ-特にアトピ-の機序」につての講演があります。ともに、最近の興味あるお話が拝聴できることを楽しみにしております。また、一般演題も11題頂きまして演者の先生方に御礼申しあげます。研究会が活発な意見の交流の場として、北陸の会員の親睦を更に深め、明日からの研究に役立つ事と考えています。

おわりに、充実した実りある一日でありますよう会員一同のご協力とご支援をお願い申しあげます。また、本研究会開催にあたりご協力とご指導を賜りました各位に厚くお礼申しあげます。

1998年6月6日

北陸病害動物研究会第16回集会

世話人 飯田和質

飯田英侃

- 一般演題 (13:00~13:45) 座長 矢野泰弘 (福井医大・免疫・寄生虫)
1. 福井県の鳥寄生マダニのボレリア保有状況およびキチマダニのボレリア経期感染について
石畝史、飯田和質 (福井衛研)、高田伸弘 (福井医大・免疫・寄生虫)
 2. 中国西域にボレリアを探る
高田伸弘 (福井医大)
 3. 石川県能登半島における紅斑熱群リケッチャの調査研究
及川陽三郎、池田照明 (金沢医大・医動物)、高田伸弘 (福井医大・免疫・寄生虫)

教育講演 (13:45~14:25) 座長 高田伸弘 (福井医大・免疫・寄生虫)
「病気の成り立ちについての新たな観点」 I 感染症重症化への機序
岩崎博道 (福井医大・第一内科)

- 一般演題 (14:25~14:55) 座長 上村清 (富山医薬大・感染予防医学)
4. 食中毒の疫学的変遷における衛生動物の意義
福井医大4年生、矢野泰弘 (福井医大・免疫・寄生虫)
 5. 福井県における下痢原性大腸菌と衛生動物類の関係について
石畝史、村田健、飯田和質 (福井衛研)、高田伸弘 (福井医大・免疫・寄生虫)

休憩 (14:55~15:10)

- 一般演題 (15:10~15:55) 座長 池田照明 (金沢医大・医動物)
6. 富山医薬大当教室で扱った人体寄生虫
上村清、荒川良*、松瀬俱子、上原千春 (富山医薬大・医・感染予防医学)
 7. 豚鞭虫 *Trichuris suis* 実験感染の試み
吉藤浩之 (金沢市食肉検査所)
 8. 肺吸虫症における免疫診断による治癒判定
及川陽三郎、池田照明 (金沢医大・医動物)、名和行文 (宮崎医大・寄生虫)

教育講演 (15:55~16:35) 座長 飯田和質 (福井衛研)
「病気の成り立ちについての新たな観点」 II アレルギー、特にアトピーの機序
石黒和守 (福井医大・皮膚科)

一般演題 (16:35~17:20) 座長 渡辺護 (富山衛研)

9. 富山医薬大当教室における累代飼育中の蚊類

上原千春、土井修子、白井良和、H.Ishak、上村清 (富山医薬大・医・感染予防医学)

10. 蚊誘引に関する研究例と今後の展開について

白井良和、上村清 (富山医薬大・医・感染予防医学)、関太輔 (富山医薬大・医・皮膚科学)

11. オロロ (イヨシロオビアブ) の駆除法私案

渡辺護 (富山衛研)

☆ 参加者各位へ

参加：広く医学・保健の仕事に携わり、この分野に興味を持つ方の参加・来聴を歓迎します。会費1,000円 (抄録を含む) は当日受付

発表：一般演題は発表10分、質疑5分以内とします。

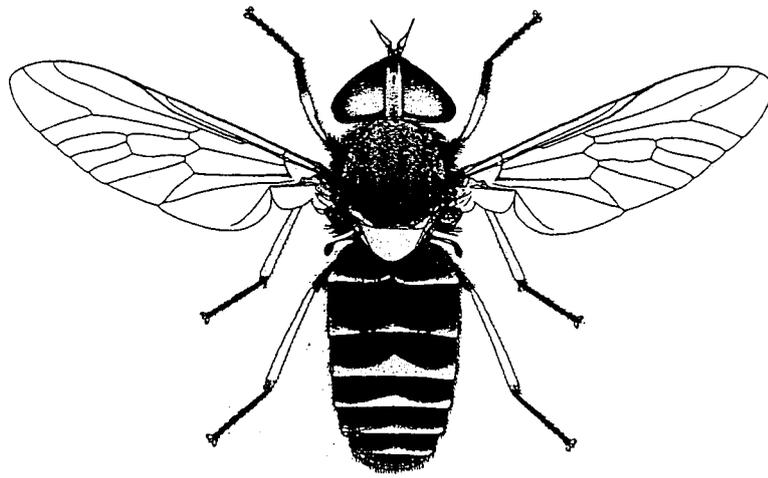
懇親会：研究会終了後ロビーで1時間程度の懇親会を予定していますので奮ってご参加下さい。懇親会費1,000円は当日受付

連絡先：〒910-8551 福井市原目町39-4 福井県食肉衛生検査所 浅田恒夫
Tel 0776-53-5844 FAX 0776-54-5630

北陸病害動物研究会会報

第 17 回研究集会プログラム・抄録集

第 12 卷 1 号



期 日 1999 年 6 月 26 日 (土)
会 場 富山県衛生研究所 管理棟講堂
主 催 北陸病害動物研究会 富山県幹事会

医動物学，寄生虫学，衛生昆虫学，衛生ダニ学，家屋害虫学などと呼ばれている学問分野は，ヒトが心身ともに健康に暮らす場合に，必要不可欠な最も密接で，身近な問題を取り扱う科学と言っても過言ではないでしょう。

先人達の弛み無い努力により，重要で深刻な寄生虫病や昆虫・ダニが媒介する感染症は少なくなりましたし，蚊やハエも確かに少なくなりました。しかし，私たちの周りには，ダニや昆虫が媒介する新旧の感染症がまだ多数ありますし，国内への侵入が懸念される感染症もあります。また，近年の健康・清潔志向の高まりで，食品の安全確保も大きな問題になっております。

このような時勢の中で，今回はダニが媒介する感染症で，古くて新しいつつがむし病，近年，国内での患者発生が確認され，全国に拡がりつつある紅斑熱とQ熱（コクシエラ症）について，富山県での研究の現状を石倉康宏先生に特別講演として，話題を提供して頂きます。

この研究会が皆様の日常の研究，業務に少しでもお役に立つことがあれば，お世話をした者として望外の喜びです。

第 17 回北陸病害動物研究会

代表世話人 渡辺 護

第17回北陸病害動物研究会プログラム

1999年6月26日(土)13時～18時
富山県衛生研究所 管理棟3階講堂

12:15 受付開始

13:00～14:15 座長 横畑 泰志

1. ササラダニ(Acari: Oribatida) から見いだされた擬糞尾虫について
島野 智之 (東北農試・畑地利用部)、上村 清 (富山医薬大・感染予防医学)
2. 日本海産ウミスズメおよびウトウの寄生蟻虫相
石田 容子・北 紀子・○横畑 泰志 (富山大・教育・環境生物)、梶ヶ谷 博 (野生動物救護獣医師協会)、楯 美樹 ((株)富士バイオメディックス)、棚本 利昭・柳井 徳磨 (岐阜大・農・獣医)
3. ネコ蛔虫成虫の幼児寄生例
○近藤 力王至・小松原 彰・伊川 和美・木村 晋亮(石川県予防医学協会)、上野 良樹・蓮井 正樹 (小松市民病院・小児科)
4. アカントアメーバ角膜炎の1例に関する基礎的検討
○及川 陽三郎・池田 照明 (金沢医大・医動物)、北川 和子(金沢医大・眼科)
5. 生活環境中からのアカントアメーバの検出
○松田 万里子 (金沢医大6年生)、及川 陽三郎・池田 照明 (金沢医大・医動物)、北川 和子(金沢医大・眼科)

14:15～15:30 座長 石畝 史

6. 北陸地方のユスリカ
佐々 学 (環境福祉研究所)
7. 山代温泉排水路に多発するユスリカについて
○四月朔日 直行・坂谷 謙一 (石川県南加賀保健所)
8. ロシア沿海州ウスリースクでの1998年夏期における蚊の調査
○上村 清・白井 良和 (富山医薬大・感染予防医学)
9. ヒトスジシマカが吸血を好む身体の部位について
○白井 良和・上村 清 (富山医薬大・感染予防医学)、関 大輔・諸橋 正昭 (富山医薬大・医・皮膚科学)
10. デング熱媒介蚊幼虫の低温適応性について
○高橋 華子・小向 潤 (富山医薬大・医4年生)、上村 清 (富山医薬大・感染予防医学)

15:30～15:45 休憩

15:45 ~ 16:45 特別講演 座長 渡辺 護

「富山県のリケッチア症」 石倉 康宏 (富山衛研・ウイルス)

16:45 ~ 18:00 座長 及川 陽三郎

11. 日本に侵入したセアカゴケグモの低温適応性について
○松瀬 俱子・上村 清 (富山医薬大・感染予防医学)、吉田 政弘 (大阪府公衛研・医動物)
12. 西日本のタテツツガムシについて
○高田 伸弘・矢野 泰弘 (福井医大)、馬庭 芳朗 (大屋町診療所)
13. 石川県において蚊 *Culex tritaeniorhynchus* から分離された日本脳炎ウイルスの分子生物学的解析
○H. Ishak^{1,2}・竹上 勉²・宮本 千加子^{1,3}・白井 良和¹・上村 清¹ (¹富山医薬大・感染予防医学、²金沢医大総医研、³金沢市保健所)
14. 野鼠類からの EAST-1 遺伝子保有大腸菌などの分離
○石畝 史 (福井衛研)、中嶋 智子 (京都府環境研)、高田 伸弘 (福井医大)
15. 衛生動物が関与する食中毒、福井県を中心に
○福井医科大学 4 年次学生・矢野 泰弘・高田伸弘 (福井医大・免疫学・寄生虫学教室)

————— ご 案 内 —————

参 加 : 本研究会にご興味をお持ちの方ならどなたでも参加できます。

参加費 : 1,000 円、当日受付でお支払い下さい。

発 表 : スライドプロジェクター1台を用意致します。スライド枚数は制限致しませんが、発表時間を厳守下さい。口演 12 分、質疑 3 分 です。

懇談会 : 研究集会終了後、会議室において会費 1,000 円で予定しております。

(自動車で来られる方が多い様に思いますので、今回はアルコール飲料を準備致しません。)

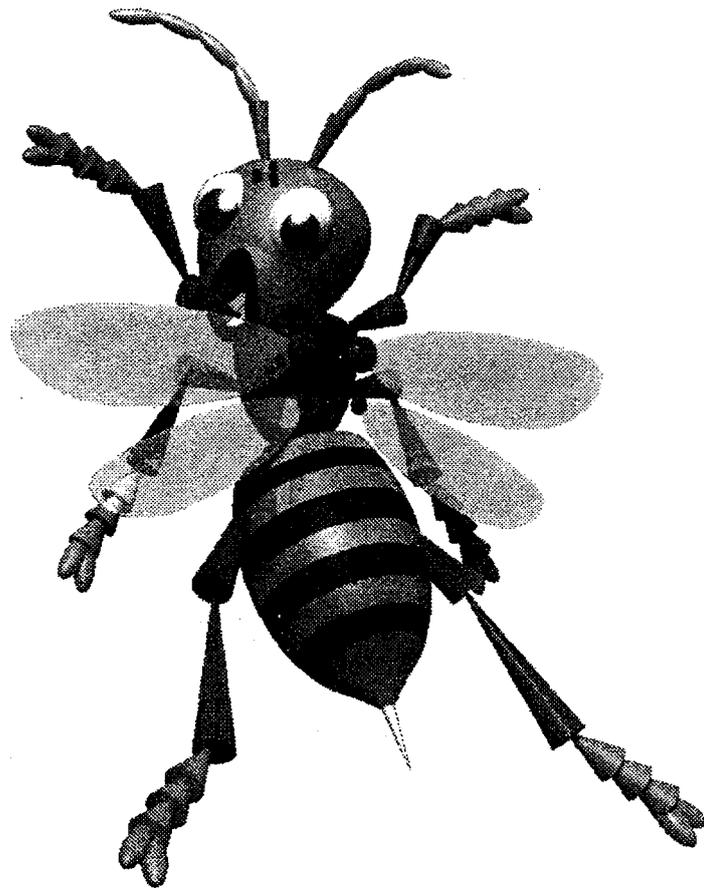
会場案内 : 富山県衛生研究所 管理棟 2 階の正面玄関からお入りください。

玄関でスリッパに履き替えて頂き、3 階にお進み下さい。受付は 3 階です。

管理棟 3 階見取り図



第18回北陸病害動物研究会



平成12年7月1日(土)
(於)石川県南加賀保健福祉センター

I. 「寄生虫学新書」から「寄生虫学テキスト」出版へのかかわり

上村 清（富山医薬大・医・感染予防医学）

今から 34 年前の 1966 年 9 月，当時千葉大学寄生虫学助教授だった吉村裕之先生が文光堂から「寄生虫学新書」を出版され，医学生の教科書や国試対策副読本などに用いられ，1969 年 4 月 3 版，1972 年 4 月 4 版，1975 年 8 月 5 版と単著で改訂を重ねられてきた。1978 年 4 月 6 版で小生と近藤力王至先生が共著者として加わり，衛生動物学分野も加えて一層の充実が計られた。1984 年 3 月 8 版で全面的な改訂作業を委ねられ，さらに 1990 年 8 版訂正として，手直しを行った。この頃，寄生虫学教科書として類書が各社から出版され，販売数が低下したが，それまでは全国の医学生に大いに愛用されていた。出版社の担当者高杉吉彦氏から要望されて吉村先生と 9 版での全面改定を相談させていただき，1995 年 5 月，赤字を入れた新書と共に，「一応気づいた点を書き込みましたので更に検討し思う様に直して下さい。お願いします」とお手紙をいただき，ぼちぼちと作業を進めていた。ところが，病床にあられた吉村先生から，1997 年 12 月，「どうぞ心づかいなく新メンバーで近代的な教科書を誕生させてほしい」とのお手紙をいただき，出版社や近藤先生と相談し，新教科書を作成することとなった。当時，近藤先生は大変お元気だったので，一緒に作っていただけると期待していたが，自分が出る幕ではないと固辞され，井関，赤尾，有園，赤羽の諸先生を推薦いただいたのだが，編集打合せ，他教科書との関わりなどから，原虫類を井関基弘先生，吸虫・条虫類を平井和光先生，線虫類を木村英作先生に依頼し，編集・総論・衛生動物類を小生が担当することで，2000 年 4 月発行予定で作業を進めてきた。教科書名は「寄生虫学 21」としようとしたのだが，出版社の意向で，オーソドックスな「寄生虫学テキスト」とすることになり，編集作業を終え，出版に向けて大詰めを迎えている。21 世紀の医療を担うことになる医学生，臨床検査科学生にふさわしい教科書になるように願っている。

プログラム抜け

北陸病害動物研究会会報

第19回研究集会プログラム・抄録集

第14巻1号



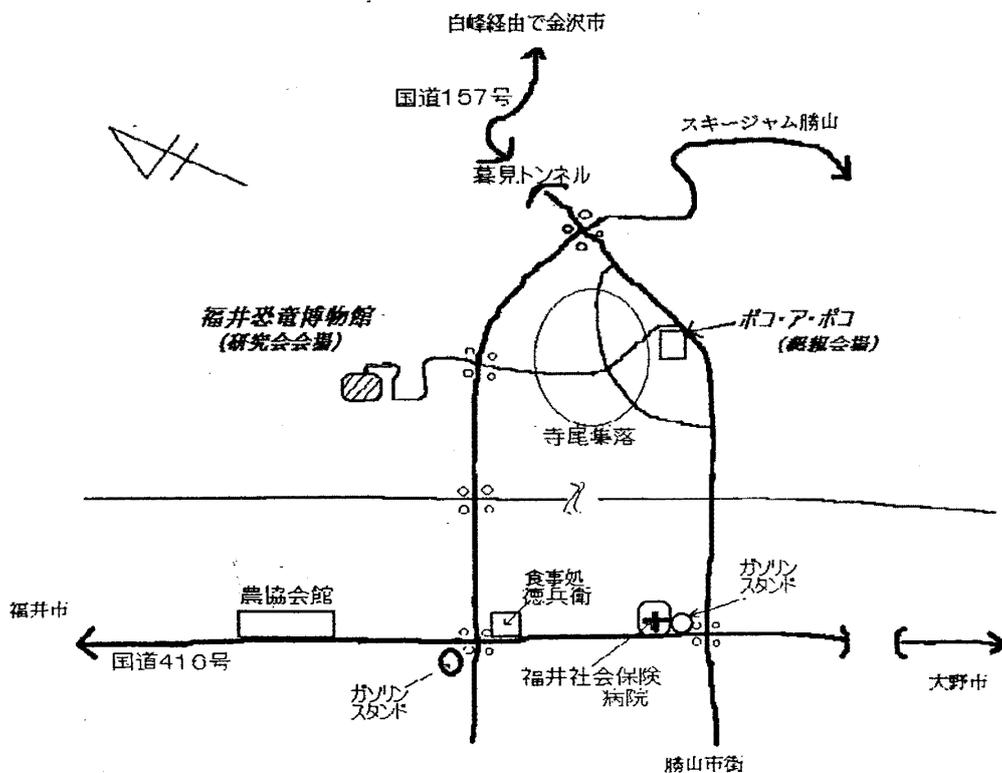
June 23, 2001

第19回北陸病害動物研究会プログラム

気がつけば、本研究会は19回目です。この分野の研究交流や啓蒙の場が、地方でこれだけ息長く続いている例は他にはないようで、大変貴重なことと思います。ただ長い間には、大学研究室の変遷あるいは地域保健法絡みでの保健所等の統廃合などで人的な移ろいもあり、この会を可能なだけ続けるのは今後の取り組み如何と申せましょうか。

今回は、昨秋に金沢大学に新たに赴任された井関先生からご専門のお話をうかがう楽しみがあります反面、富山医科薬科大学の上村先生は今年度一杯でご退官ということで大変寂しいことではありますが、富山での思い出のお話などいただき、関係者一同、記念として心に刻みたく存じます。

1. 開催日時 2001年6月23日(土) 午後1時～5時
2. 開催場所 福井県勝山市「福井県立恐竜博物館」2階研修室 TEL0779-88-0001
外来者駐車場あり。近傍に食事処はなく、館内レストランが便利。
3. 会費など 研究会費1,000円および懇親会費1,000円(希望の方のみ)
4. 発表形式 35mm版スライド映写(できるなら10枚以内に、またOHPは不可)。資料等の配布は適宜願います。演者の持ち時間は、特別講演が30分程度(質疑数分を含む)、一般演題は15分(発表10分+質疑5分)を厳守下さい。



12:58～ 当番幹事挨拶

P.

13:00～ 座長 石畝 史
ガイドンス「福井県恐竜博物館のあれこれ」 同博物館展示解説員 ……1

13:20～ 座長 高田伸弘
記念講演「北陸、とくに富山県における医動物学事始め」 上村 清 ……2
(富山医薬大・感染予防医学)

14:00～ 座長 渡辺 護
1. Q熱病原体 (*Coxiella burnetii*) の浸淫調査 安藤秀二・石倉康宏 ……3
(富山県衛研)
2. 福井県奥越地方のツツガムシ病 岩崎博道 (福井医大)・山川 秀 ……4
(大野市山川医院)

14:30～ 座長 池田照明
3. 蚊を用いた実験例 松瀬イネス俱子・上村 清 (富山医薬大・感 ……5
染予防医学)
4. 当大学病院を受診したマラリア患者の血液薄層塗沫標本について ……6
及川陽三郎・池田照明 (金沢医大・医動物)・田中 佳・広沢静香
(同・病院・中検)・川端 浩 (同・血免内科)

15:00～ 《《《 コーヒーブレイク 》》》

15:20～ 座長 上村 清
特別講演「クリプトスポリジウムの疫学」 井関基弘 (金沢大・医) ……7

15:50～ 座長 井関基弘
5. 福井県における水質保全対策、特にクリプトスポリジウムの問題 ……9
福井医大4年次学生6名
6. *Giardia lamblia* に起因する下痢症の1例 瀬尾珠美・岩崎博道 ……10
・上田孝典・矢野泰弘・高田伸弘 (福井医大)

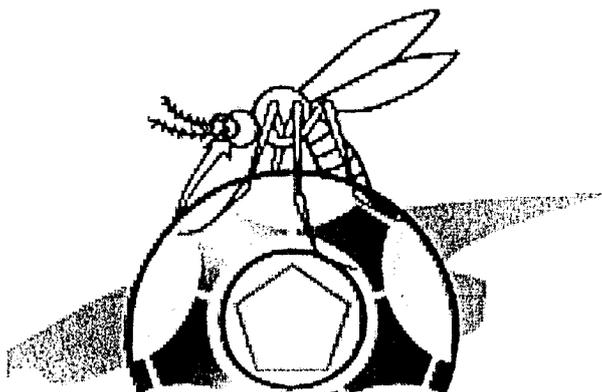
16:15～ 座長 松瀬イネス俱子
7. ツツガムシ病の1例、そして北陸3県の発生状況のまとめ 折戸 ……11
秀光・筒井清広・川島愛雄 (石川県病・皮膚)・村田久仁男 (厚
生連高岡病院・皮膚)・高田伸弘 (福井医大)・石倉康宏 (富山県衛研)
8. ヘクサンボ (カメムシ) の飛来生態 渡辺 護 (富山県衛研) ……12

16:45～ 閉会後に懇親会場へ移動 (喫茶店ポコ・ア・ポコ TEL 0779-88-1010)

北陸病害動物研究会会報

第20回研究集会プログラム・要旨集

第15巻1号



期日 2002年6月29日(土)
会場 丸三製薬株式会社 本社研修室
主催 北陸病害動物研究会 富山県幹事会

第20回北陸病害動物研究会開催にあたって

1982年4月、佐々学先生が富山医科薬科大学学長として来られたのを機会に本研究会が結成され、北陸3県の寄生虫、衛生動物、環境生物関係者の情報交換、親睦の場として、毎年各県持ち回りで開催されてきました。初期には親睦に重きをおいて泊まりがけで行うこともありましたが、参加者が増え、発表会中心となり、故近藤力王至先生のご提案で、第6回からプログラム・要旨を会報として作成することになりました。今回、めでたく20年目を迎えることができましたが、W杯日韓大会でのヒトの大量移動にちなみ、金沢大学の井関基弘先生に「輸入寄生虫感染症とその対策」について特別講演をしていただきます。今春富山医科薬科大学を退官した上村清が記念講演として「富山県における寄生虫症」を話します。また、一般講演を頂きました演者の先生方にお礼申し上げます。大学、衛生研究所、食肉検査所、環境科学センターや行政担当官、PCOなどの官民を交えた研鑽と親睦の場として、今後の会が運営されていくことが期待されます。当日の会にはさらにお誘いあわせのうえ、多数ご出席頂きたく、お願いいたします。

2002年6月29日

代表世話人 守山義明

1. 開催日時 2002年6月29日(土) 午後1時～5時半
2. 開催場所 富山市南央町「丸三製薬株式会社」本社2階研修室 Tel 076-429-0303
3. 会費など 本会に興味をお持ちの方ならどなたでも参加できます。
研究会費 1,000 円は当日会場にてお支払い下さい。
研究会費には発表会後の懇親会茶菓代も含まれています。
自動車利用の方が多いので、今回はアルコール飲料を準備いたしません。
4. 発表形式 OHP、35mm スライド、資料配布のいずれも可能ですので、申出下さい。
演者の持時間は、特別講演と記念講演が35分、一般講演が15分（口演12分、質疑3分）です。持時間を厳守下さい。

プログラム

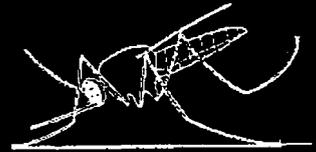
- 13:00 当番幹事挨拶 守山義明 (丸三製薬)
- 13:05 座長 池田照明
記念講演 「富山県における寄生虫症」 上村 清 (丸三製薬)
- 13:40 座長 渡辺 護
1. 異物混入の分類検査における傾向について、 吉枝卓郎 (丸三製薬)
2. 腎部化膿疣贅の切開摘出時にみられた虫体様構造物の同定—マダニ咬症の1例—、
岡本雅子、井関基弘 (金沢大・寄生虫)、上村 清 (丸三製薬)
- 14:10 座長 横畑泰志
3. 東アジアで見られたライム病ボレリアとマダニ—わが国との関連を探る—、
高田伸弘、矢野泰弘、岩崎博道 (福井医大)、石畝 史 (福井県衛研)、
藤田博己 (大原研究所)、増沢俊幸 (静岡県大・薬)
4. 我が国のヒトバベシア症とその疫学、
矢野泰弘、高田伸弘 (福井医大・寄生虫)、斉藤あつ子 (神戸大・医動物)
5. 富山県におけるコガタアカイエカの発生状況、1969—2001年の成績、
渡辺 護 (富山県衛研)

コーヒーブレイク

- 15:10 座長 高田伸弘
特別講演 「輸入寄生虫感染症とその対策」 井関基弘 (金沢大・寄生虫感染制御)
- 15:45 座長 及川陽三郎
6. 興味ある寄生虫症例—増加傾向のシアルシア症および難治性のぎょう虫症—、
岩崎博道 (福井医大・輸血部)、高田伸弘 (福井医大・免疫寄生虫)、
上田孝典 (福井医大・1内)
7. 鳥獣保護法の改正による小型哺乳類捕獲の規制について、
横畑泰志 (富山大・教育・環境生物)
- 16:15 座長 岡本雅子
8. 福井県における新たな食品衛生問題の実態と対応—動物由来感染症を中心に—、
酒井英嗣、佐藤 剛、菌部 崇、曹 弘規、
土屋賢一、松本栄治 (福井医大・4年次生)
9. 角膜炎患者より分離したアカントアメーバ4株のシストの付着性に関する考察、
及川陽三郎、池田照明 (金沢医大・医動物)、北川和子、
中村孝子 (金沢医大・眼科)、小林 顕 (金沢大・眼科)



北陸病害動物研究会会報



第21回北陸病害動物研究会プログラム・抄録集

第16巻1号

期日 2003年6月28日（土）

会場 金沢大学医学部会議室

幹事 井関基弘（金沢大学大学院医学系研究科寄生虫感染症制御学）

岡澤孝雄（金沢大学留学生センター）

本研究会は 21 回目を迎えました。1982 年に第 1 回が富山で開催されて以来、寄生虫・衛生動物・環境生物の研究・検査・撲滅などに携わる北陸 3 県の仲間が集い、研究発表、情報交換、親睦の場として脈々と続いていることは素晴らしいことです。

昨今、私達の研究領域を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。国際化社会の到来と海外渡航者数の激増による輸入感染症の増加、輸入ペット動物の激増による動物由来感染症の増加、次々と出現する新興・再興感染症、地球温暖化に伴う疾病媒介動物の生息域拡大、高齢化社会とライフスタイルの変化に伴う感染症構造の変化・・・。

21 世紀は感染症との闘いがますます重要になります。ともすれば軽視されがちであった私達の領域は、これからが大いに活躍が期待される時代です。本研究会をこれからも益々発展させましょう。

今回は、教育講演のテーマとして「感染症対策ネットワークの構築に向けて」をとりあげました。感染症の流行予防には、地域保健に携わる医師・研究機関・行政の連携が必須であり、近接する自治体レベルのみならず、国レベル、国際レベルでのネットワークの構築が欠かせません。SARS（重症急性呼吸器症候群、新型肺炎）対策がよい例です。西ナイル熱にしても、輸入食品由来の食中毒にしても、これまでとは異なる体制と対応策とが必要になるでしょう。

一般講演にも、学生さんをはじめ、興味ある貴重な演題を発表していただき、心から感謝いたします。本研究会が、明日からのご活躍のエネルギーになれば幸いです。

2003 年 6 月

当番幹事 井関 基弘
岡澤 孝雄

プログラム

- 13:00 当番幹事挨拶 井関基弘（金沢大・院医・寄生虫）
- 13:05 座長 池田 照明
1. 富山県における日本脳炎媒介蚊の調査 —34年間の成績と今後の展開—
渡辺 護, 長谷川澄代（富山県衛研）
 2. 福井県における4類感染症の実態 —特に動物媒介性病種について—
岩田典子, 神澤聖一, 平林一弘, 山本知江子（福井医大・4年次生）
 3. 平成15年4月16日から施行された「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」への対応と問題点
矢野泰弘, 高田伸弘（福井医大・寄生虫学）
- 13:50 座長 矢野 泰弘
4. 皮膚科医の見た疥癬
田邊 洋, 竹田公信, 望月 隆（金沢医大・皮膚科学）
 5. ノルウェー疥癬患者より採取した落屑中のヒゼンダニの生態について
及川陽三郎¹, 池田照明¹, 田邊 洋²（¹金沢医大・医動物, ²金沢医大・皮膚科）
- < 休憩 >
- 14:30 座長 井関 基弘
- 【教育講演】 「感染症対策ネットワークの構築に向けて」**
- ① 地域保健推進に携わる医師の立場から
浅香 久美子（金沢市保健所 保健推進課）
 - ② 石川県における食中毒処理体制
四月朔日 直行（能登中部保健福祉センター・食品保健課）
 - ③ アウトブレイクへの備え —日米の比較と今後の展望—
所 正治（金沢大・院医・寄生虫感染症制御学）
- ※ 追加発言：ウエストナイル脳炎（西ナイル熱）対策について
上村 清（丸三製薬）
- < 休憩 >
- 16:10 座長 岡澤 孝雄
6. 2002年秋のカメムシ飛来数はなぜ少なかったか？
渡辺 護（富山県衛研）
 7. セスジシミとキイロカバエの家屋内発生例について
上村 清, 吉枝卓郎, 金岡英治（丸三製薬）
- 16:40 座長 渡辺 護
8. セアカゴケグモの毒腺抽出物による疼痛関連行動における
 α -latrotoxin の関与
大塚英治, 上村清, 野島浩史, 倉石 泰（富山医薬大・薬・薬品作用学）
 9. 金沢市内のペットショップのイヌにおける寄生虫感染状況
岡本雅子¹, 所 正治¹, 井関基弘¹, 阿部仁一郎²
（¹金沢大・院医・寄生虫, ²大阪市環科研・微生物保健）
- 17:10 ~ 懇 親 会

北陸病害動物研究会会報

第22回研究集会プログラム・抄録集

開催日：平成16年6月5日（土）

会場：福井市立郷土歴史博物館

主催：北陸病害動物研究会福井県幹事会

第 22 回北陸病害動物研究会の開催にあたって

北陸三県の持ち回りで開催しております北陸病害動物研究会が、今回福井県の担当で開催される運びとなりました。

感染症に関しましては、平成15年11月に、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の一部改正が行われ、感染症の類型の見直しがおこなわれました。この改正の中で、1類感染症として、痘そう、SARSが加えられ、今までの4類感染症のうち、媒介動物の輸入規制、消毒、蚊・ネズミなどの駆除等にかかわる措置を講ずることが必要なものについては、新4類感染症との分類になりました。

この新4類感染症として、新たに、高病原性鳥インフルエンザ、サル痘、ニパウイルス感染症、野兔病、レプトスピラ症などの動物由来感染症があります。従来の4類感染症で、この度の改正で新4類感染症と位置づけられたもの以外は、新5類感染症との分類に変更されました。

近年は特に国家間の交流が盛んになって来ており、動物由来感染症が注目されています。諸外国からの病原因子を保有した動物等を原因とする感染症発生の危険性、およびそれらの動物により生態系を崩す恐れも懸念されています。われわれ会員は、これらのことを踏まえ、今後とも研鑽を深めていくことが必要であると考えています。

本日は、教育講演としまして、福井大学医学部 第一内科の岩崎道博先生により「動物由来感染症と院内感染について」のご講演があります。最新の興味ある知見が拝聴できるものと楽しみにしています。一般演題も9題頂きました。業務お忙しいところ、これらの演題を提供していただきました演者の方々に感謝申し上げます。この研究会が、活発な意見交換の場として、この地域の会員の皆様方の親睦を更に深め、明日からの研究に役立てば幸いです。

最後に、この研修会が実りのあるものでありますよう、今後とも会員の皆様方のご協力とご支援をお願いいたします。また、本日の研究会開催にあたり、ご尽力いただきました関係者の方々に、厚くお礼申し上げます。

平成 16 年 6 月 5 日

北陸病害動物研究会福井県幹事会

高田伸弘（福井大学医学部）

望月典郎（福井県衛生環境研究センター）

石畝 史（福井県衛生環境研究センター）

第 22 回北陸病害動物研究会プログラム

I 教育講演

演 題：動物由来感染症と院内感染
 講演者：岩崎 博道 先生
 福井大学医学部・第1内科

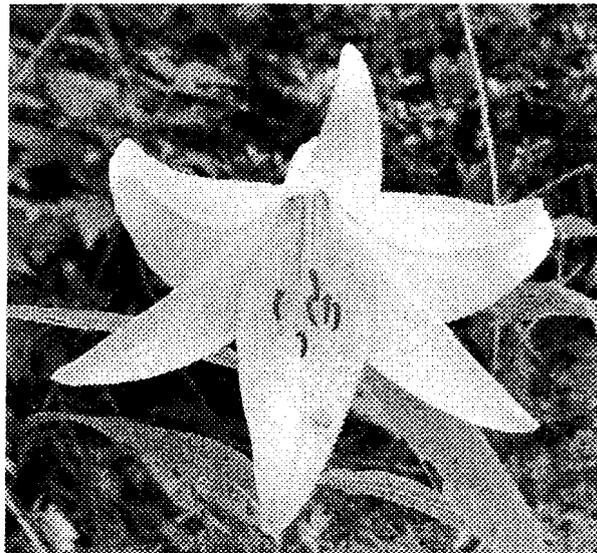
II 発表演題

- 1 金沢市内のペットショップにおけるフェレットとインコの腸管寄生原虫の感染状況
 ○岡本雅子¹、仲本賢太郎¹、阿部仁一郎²、所正治、井関基弘¹
 (金沢大・院医・寄生虫¹、大阪市環科研・微生物保健²)
- 2 クリプトスポリジウムはどこから来るのか？
 ○所正治、岡本雅子、仲本賢太郎、井関基弘
 (金沢大・院医・寄生虫)
- 3 アタマジラミとケジラミの産卵状況
 ○及川陽三郎¹、田邊 洋²
 (金沢医大・生体感染防御学¹、皮膚科²)
- 4 福井県の動物由来感染症の問題点を探る
 ○長澤誠司、岡田晃斉、佐藤亜矢子、吉田也恵
 (福井大学医学部4年次生)
- 5 マダニ相とライムボレリア分布にみる関係、
 特に東北と南西日本での実情はどうなのだろう？
 ○高田伸弘¹、石畝 史²、矢野泰弘¹
 (福井大・医¹、福井県衛環研²)
- 6 自然感染系ヤマトマダニ唾液腺における *Babesia microti* の組織学的追跡
 ○矢野泰弘¹、斎藤あつ子²、Dantrakool Anchalee²、河合敦子²、高田伸弘¹
 (福井大・医¹、神戸大・医²)
- 7 なぜ、近年日本脳炎患者が減ったか？
 ○渡辺 譲、長谷川澄代、小原真弓 (富山衛研)
- 8 ビル管理法改正にともなう害虫管理のあり方
 ○上村 清、守山義明、吉枝卓郎 (丸三製薬)
- 9 福井県内のマダニにおける紅斑熱群リケッチアの保有状況
 ○石畝 史¹、高田伸弘²、藤田博己³
 (福井県衛環研¹、福井大・医²、大原研³)

III 進行スケジュール

時間帯	項 目	内 容	摘 要
12:30	受付	二階会議室前	
12:45	ポスター掲示		
13:10	開会		
13:20	ポスターセッション		
	発表演題 9題 (休憩)	15分/題 (質疑を含む)	
16:00	教育講演	動物由来感染症と院内感染	岩崎博道先生
16:30	総合討論		
17:30	閉会		
18:00	茶話会		於：葵会館移動

第 23 回北陸病害動物研究会



平成17年7月2日(土)
(於) 金沢医科大学 基礎棟3階大学院セミナー室

第23回北陸病害動物研究会プログラム

2005年7月2日(土) 午後1時～4時30分
(於) 金沢医科大学 基礎棟3階大学院セミナー室

1:00～1:45 座長 及川陽三郎(金沢医科大・生体感染防御学(医動物学))

1) 温泉とアカントアメーバ

○及川陽三郎、池田照明(金沢医科大・生体感染防御(医動物))
網中真理、鎌田真弓(同・3年(現、6年))

2) マダニの解剖－唾液腺の摘出方法について－

○矢野泰弘・高田伸弘(福井大・医・病因病態医学)

3) 福井県における感染症対策、特に一類、二類感染症及び院内感染症について

○久保裕香; 澤田裕介; 竹内香代; 森 憲彦(福井大学医学部・4年次生)

1:45～2:30 座長 矢野泰弘(福井大・医・病因病態医学)

4) ナンキンムシの古今とある防除事例

○上村 清、大久保雅彦、守山義明(丸三製薬)

5) 福井県で見出された紅斑熱をめぐって

○高田伸弘¹⁾ 石畝 史²⁾ 野路義博³⁾ 矢野泰弘¹⁾ 藤田博己⁴⁾ 岩崎博道¹⁾
¹⁾ 福井大・医 ²⁾ 福井県衛環研 ³⁾ 福井県病 ⁴⁾ 大原研究所

6) 恙虫病－臨床的特徴について－

○渡邊晴二(金沢医大・皮膚科)

コーヒープレイク(2:30～2:45)

2:45～3:30 座長 渡辺 護(富山県衛生研究所)

〔教育講演〕 蚊による病気のはなし

○上村 清(丸三製薬)

3:30～4:30 座長 所 正治(金沢大学・院医・寄生虫感染症制御学)

7) 富山県における感染症媒介蚊の調査、ウイルスの検出

○小原真弓、渡辺 護、長谷川澄代(富山県衛生研究所)

8) スマトラ沖調査－地震から守られて無事帰国－

○上村 清(丸三製薬)、岡沢孝雄・所 正治・仲本賢太郎(金沢大)

9) インドネシアにおける土壌伝播蠕虫感染状況

○吉田知世¹⁾、井関基弘¹⁾、上村 清²⁾、岡沢孝雄³⁾、所 正治¹⁾(¹⁾金沢大学・院医・寄生虫感染症制御学、²⁾丸三製薬、³⁾金沢大学・留学生センター)

10) インドネシアに分布するジアルジアの遺伝子型解析

○山村一志¹⁾、井関基弘¹⁾、上村 清²⁾、岡沢孝雄³⁾、所 正治¹⁾(¹⁾金沢大学・院医・寄生虫感染症制御学、²⁾丸三製薬、³⁾金沢大学・留学生センター)

4:45～5:45 懇親会

第24回 北陸病害動物研究会
プログラム・抄録集

第19巻 1号

期日:2006年5月6日(土)
会場:呉羽ハイツ 研修室(薬師)

開催にあたって

私たちの敬愛する佐々学先生が、去る4月10日に逝去された。1982年4月、富山医科薬科大学学長として着任された佐々学先生の提唱で本研究会が結成され、北陸3県の衛生動物、寄生虫、環境生物関係者の研鑽、情報交換、親睦の場として、毎年各県持ち回りで脈々と開催されてきました。24年目の今年は、ちょうど富山県が当番に当たっていたので、先生を偲ぶ会と兼ねて急遽行うこととしました。

近頃は、学会発表では話きれない身近な研究成果の報告を中心に、最近の話題の教育講演などを取り混ぜて発表会中心で行われていましたが、今回は、一般講演に引き続いて、追悼講演として、佐々先生を偲んでの、蚊、フィラリア、ダニ、ユスリカの研究領域と、富山の2大学、黒部での佐々先生に関する6講演をお願いしました。また、初期には親睦に重きをおいて泊まり込みで行っていましたが、久方ぶりに宿泊し、佐々先生の思い出を語り合うことにいたしました。呉羽ハイツは、かつての日本ダニ学会大会、日本衛生動物学会・日本寄生虫学会西日本支部合同大会の懇親会場で、佐々先生に力強く乾杯の音頭をとっていただいた思い出の場所です。家庭サービスをすべきゴールデンウィーク中にもかかわらず、多数ご参集いただき、貴重な発表をしていただき、心から感謝いたします。

21世紀は新興・再興感染症の時代といわれます。国際化や生活スタイルの変化、高齢化にともなう輸入感染症や人畜共通感染症、日和見感染症の増加、地球温暖化や輸入増大にともなう外来生物の増加や生息域の拡大……。これら事態に対応するため、私たち分野の発展が大いに期待されています。本研究会が、明日への活力となり、佐々先生の遺志を引き継いでますます発展することを祈念いたします。

2006年5月6日

富山県幹事

上村 清
渡辺 護
守山義明

プログラム

開催にあたって

一般講演

13:10～14:10

座長 池田照明（金沢医大・生体感染防御）

1. ライトトラップによる蚊消長調査の統計学的検討

○上村 清（丸三製薬）、森岡斗志尚（富山大・医・統計）、荒川 良（高知大・農・昆虫）、渡辺 護（富山県衛研）、松瀬俱子（東興薬品工業）、丸山由紀子（WHO）、岡沢孝雄（金沢大・留学生センター）、島野智之（宮城教育大・環境教育）、中村正聡（JICA・ミャンマー）、白井良和（害虫防除技術研）、折笠秀樹（富山大・医・統計）

2. 穴の開いた竹に生息する蚊

岡沢孝雄（金沢大・留学生センター）

3. 福井県の紅斑熱群リケッチア症 特に、患者発生地でのベクター調査について

○石畝 史（福井県衛研）、高田伸弘・矢野泰弘（福井大・医）、藤田博己（大原研）

4. 能登半島のツツガムシ病の調査

○及川陽三郎・池田照明（金沢医大・生体感染防御）、矢野泰弘・高田伸弘（福井大・医）

5. マダニ唾液腺からの *Babesia microti* の検出

○矢野泰弘（福井大・医）、斉藤あつ子・河合敦子（神戸大院・医）、高田伸弘（福井大・医）

14:10～15:10

座長 高田伸弘（福井大・医・病因病態）

6. 腸管寄生原虫のPCRによる検出

○仲本賢太郎・所 正治（金沢大院・医・寄生虫感染症制御）

7. PCR法によるサイクロスポーラの検出

○荒井朋子・吉田知代（金沢大院・医・寄生虫感染症制御）、古川 博（藤田保衛大・病院・臨床検査）、小松八千代（藤田保衛大・リウマチ感染症内科）、所 正治（金沢大院・医・寄生虫感染症制御）

8. ジアルジア（ランブル鞭毛虫）の遺伝子型解析

○山口智博（金沢大院・医・寄生虫感染症制御）、及川陽三郎（金沢医大・生体感染防御）、所 正治（金沢大院・医・寄生虫感染症制御）

9. コール酸誘発による大平肺吸虫メタセルカリアの脱囊におけるメタセルカリアシステインプロテアーゼの役割
池田照明（金沢医大・生体感染防御）
10. 「寄生生物保全ネットワーク」の試み
○横畑泰志（富山大・理）、浦部美佐子（滋賀県大・環境科学）

追悼講演

15:10～16:10

座長 守山義明（丸三製薬）

黙祷

11. 佐々先生と蚊

○上村 清（丸三製薬）、渡辺 護（富山県衛研）

12. 佐々先生とフィラリア

及川陽三郎（金沢医大）

13. 佐々先生とダニ

○高田伸弘（福井大）、島野智之（宮城教育大）

16:10～17:00

座長 寺西秀豊（富山大・医・公衆衛生）

14. 佐々先生とユスリカ

○河合幸一郎（広島大）、○小林 貞（環境福祉研）

15. 富山の2大学における佐々先生

○荒川 良（高知大）、○岡沢孝雄（金沢大）

16. 黒部における佐々先生

○田中英文・高木美代子（環境福祉研）

会食

18:30～20:00

佐々先生を偲ぶ会食（立食、二次会あり）



北陸病害動物研究会会報



第25回北陸病害動物研究会プログラム・抄録集

第20巻1号

期日 2007年6月2日(土)
会場 金沢大学医学部A棟講義室
幹事 所 正治(金沢大学大学院医学系研究科寄生虫感染症制御学)
岡澤孝雄(金沢大学留学生センター)

インドネシアでは、昨年1年間にジャカルタ特別州のみで114,656名（うち1,196名死亡）のデング熱の発生があり、州知事による非常事態宣言が発せられましたが、今年度に入っても感染者は引き続き発生し続けています。また、鳥インフルエンザのヒト感染例も数を増やし不気味な推移を見せていますし、HIV/AIDSはついに世界で4000万人の大台にのり、マラリア、結核の動向も予断を許しません。このような周辺諸国、世界の感染症動向をみれば、年間に延べ1700万人を越える人々が海外に出かけ、200万人を越える外国籍の人々を受け入れているわが国において、感染症に対する備えは必須のはずです。しかし、振り返って国内の感染症対策の現状を考えると、まるで竹槍を手にして戦いを挑もうとしているような不安を感じないでしょうか。感染症を専門とする部門の減少と、若手育成の困難の中で、未知の病原体が国境を越えてこの国でアウトブレイクを引き起こしたとき、我々は果たして有効な手だてを的確に尽くしていけるでしょうか。

この困難な責任を果たしていくためには、やはり専門家の力を結集した対応が不可欠と思われます。北陸病害動物研究会は、1982年に談話会として発足以来4半世紀、民間企業、保健所、衛生研究所、大学、病院等において疫学、衛生害虫、輸入感染症、日和見感染症、院内感染などの様々な感染症対策に現場で携わっている専門家が、分野を超えて連携を深めていくための交流の場として、年に1回開催されてきました。また、本会は、普段目にする事の少ない専門外の感染症対策を学ぶ絶好の機会でもありますし、若手にとっては、幅広いバックグラウンドの専門家から貴重なコメントをもらうことのできる道場でもあります。

本年は若手の専門家育成を目指した「継承」をキーワードに、特別講演をお願いいたしました。より優れた感染症対策の構築を目指し、力を結集していくために、おおいに議論し、学び、交流を深めましょう。皆様の積極的な参加を心より歓迎いたします。

2007年6月

第25回北陸病害動物研究会 当番幹事 所 正治

岡澤 孝雄

プログラム

13:30 当番幹事挨拶 所 正治（金沢大・院医・寄生虫感染症制御学）

13:35 血液寄生原虫 座長 仲本賢太郎

1. 野鼠血液中バベシアの検出法に関する考察

及川陽三郎¹、吉田知代²、所 正治²、高田伸弘³

（¹金沢医大・生体感染防御学、²金沢大・院医・寄生虫感染症制御学、³福井大・医・病因病態医学）

2. 長野県産マダニ類および野鼠類からの*Babesia microti*の検出

矢野泰弘¹、斎藤あつ子²、及川陽三郎³、高田伸弘¹

（¹福井大学・医、²神戸大学大学院・医学系、³金沢医大・生体感染防御）

3. 野鼠から検出されるトリパノソーマはヒトへ感染するか？

吉田知代¹、及川陽三郎²、高田伸弘³、所正治¹

（¹金沢大・院医・寄生虫感染症制御学、²金沢医大・生体感染防御学、³福井大・医・病因病態医学）

14:15 吸血・不快・有毒昆虫 座長 及川陽三郎

4. 福井県の紅斑熱群リケッチア症 特に、患者発生地でのベクター調査について（第2報）

石畝 史¹、高田伸弘²、矢野泰弘²、藤田博己³

（¹福井県衛環研、²福井大・医・病因病態医学、³大原総合病院・大原研究所）

5. 新たに紅斑熱多発地とみなされた三重県志摩半島におけるベクター調査について

高田 伸弘、矢野 泰弘、岩崎 博道

（福井大学・医）

6. 冬のミヤマエリユスリカ大量飛来

上村 清¹、吉枝卓郎¹、柳沢清雅¹、小林 貞²

（¹丸三製薬、²環境福祉研）

7. 富山県東部における蜂事情〔事例報告〕

吉枝卓郎、上村清、守山義明

（丸三製薬株式会社）

（休憩）

15:15 特別講演 テーマ「継承」 座長 所 正治

- ① 寄生虫学 (= 医動物学, 病害動物学) の過去40年間の推移
— 研究・検査技術の次世代への継承と若手人材育成をどうするか —
井関基弘 (金沢大・院医・寄生虫感染症制御学)
- ② 蚊とその媒介する疾患
上村 清 (丸三製薬、元富山医薬大・感染予防医学)

16:15 ウィルス・吸虫 座長 矢野泰弘

8. 富山県における2006年の日本脳炎関連の調査成績について
小原真弓、渡辺 護、長谷川澄代、滝澤剛則、倉田 毅
(富山県衛生研究所)
9. 大平肺吸虫脱囊幼虫のラット腸管壁を通過するメカニズム
市川秀隆、池田照明
(金沢医大・生体感染防御・医動物)

16:50 腸管寄生原虫 座長 池田照明

10. ジアルジアの遺伝子型間の混合感染に関する考察
山口智博、Amjad I. A. Hussein、所 正治
(金沢大・院医・寄生虫感染症制御学)
11. クリプトスポリジウムが検出された渡航者下痢症の一例
新川晶子、児玉洋江、芹川俊彦
(石川県保健環境センター)
12. 赤痢アメーバ、クリプトスポリジウムのPCR・市販キットによる検出の有用性
田中身和、仲本賢太郎、所 正治
(金沢大・院医・寄生虫感染症制御学)
13. 発展途上国のフィールド調査で見られる多彩な腸管寄生原虫
荒井朋子、仲本賢太郎、Amjad I. A. Hussein、吉田知代、田中身和、
山口智博、所正治
(金沢大・院医・寄生虫感染症制御学)

17:30～ 懇親会